

遺伝子細胞工学

責任者 : 前田 正知 教授
担当講座(科) : 分子生物薬学講座

講義 18時間
単位 1単位

学 年

4 学年 前期

学習方針

基本理念 :

病気の診断、バイオ医薬品の創製、遺伝子治療、細胞治療、再生医療など薬学領域での応用が現在最も期待されている技術の一つがバイオテクノロジーである。本講義では、遺伝子や細胞の操作などバイオテクノロジーに関する基本的知識や態度を習得する。

一般目標 (GIO) :

遺伝子ライブラリーの作成やクローニングなど遺伝子操作に欠かせない酵素、ベクター、宿主細胞、遺伝子導入法や導入遺伝子の発現制御法、さらには安全性の問題について学習する。細胞成分や細胞機能の解析方法についても、薬学研究や臨床現場で利用される分析技術という観点から学ぶ。

到達目標 (SBOs) :

1. 分子生物学的技術について、実例をあげ説明できる。
2. 遺伝子のクローニングや発現の手法について概説できる。
3. 培養細胞を用いた組換え医薬品の製造について概説できる。
4. 遺伝子・細胞操作を支える免疫化学的手法、酵素的分析法、電気泳動やクロマトグラフィーなどについて、原理や応用例を説明できる。
5. センサーやドライケミストリーなど薬学領域で繁用される分析技術について概説できる。

講義日程

月日	曜	時限	講座(科)名	担当者	内 容
4/14	水	1	分子生物薬学講座	前田 正知 教授	組換え DNA 技術の概要と安全性の確保
4/21	〃	〃	〃	藤本 康之 准教授	遺伝子・cDNA のクローニング 1 : 宿主、ベクターと酵素
4/28	〃	〃	〃	〃	遺伝子・cDNA のクローニング 2 : PCR 法と塩基配列の決定法
5/12	〃	〃	〃	〃	細胞培養と細胞操作

月日	曜	時限	講座(科)名	担当者	内 容
5/19	水	1	分子生物薬学講座	藤本 康之 准教授	遺伝子導入と発現解析
5/26	〃	〃	〃	前田 正知 教授	遺伝子・細胞操作を支える分析技術と試料の取扱い
6/ 2	〃	〃	〃	〃	免疫化学的手法と酵素的分析法
6/ 9	〃	〃	〃	〃	電気泳動
6/16	〃	〃	〃	〃	クロマトグラフィー1：種類と分離機構
6/23	〃	〃	〃	〃	クロマトグラフィー2：検出法と分離の実際
6/30	〃	〃	〃	〃	センサーとドライケミストリー
7/ 7	〃	〃	〃	〃	まとめ

教科書(教)・参考図書(参)・推奨図書(推)

	書 名	著者名	発行所	発行年
教	コンパス分子生物学	荒巻 弘範、 大戸 茂弘 編	南江堂 (定価 3,675 円)	2010 年 3 月予定
教	薬学生のための臨床化学 (改訂第2版)	後藤 順一、 片山 善章 編	南江堂 (定価 5,040 円)	2008 年
参	医薬 分子生物学 (改訂第2版)	野島 博	南江堂 (定価 3,990 円)	2009 年
参	スタンダード薬学シリーズ4 生物系薬学 II. 生命をミクロに理解する	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 5,565 円)	2005 年
参	スタンダード薬学シリーズ8 医薬品の開発と生産	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 3,570 円)	2005 年

成績評価方法

講義の出席状況、定期試験、レポート及び小テストや演習を総合的に評価する。

オフィスアワー一覧

授業を担当する専任教員氏名	方 式	曜	時間帯	備 考
分子生物薬学講座 前田 正知	B - i			事前に連絡があればなお良い。
分子生物薬学講座 藤本 康之	B - i			事前に連絡があればなお良い。